

令和5年度 第2回キャリア教育検討会議 委員発言要旨

令和5年9月28日

委員名	発言要旨
飯尾委員 (コーケン工業(株))	<ul style="list-style-type: none"> ・学生により多くの現場を見てもらうのはよいが、企業によって受入れ期間の判断は分かれる。 ・就職した学生が、入社前に思い描いていたイメージと違うことを理由に退職してしまうのは不幸なことなので、企業の現状について理解してもらえるような活動をしなければならない。 ・企業と学生との交流会の内容は若手職員が中心となり考えるべき。
池ヶ谷委員 (静岡産業大学)	<ul style="list-style-type: none"> ・県内企業で負担を共有し、1、2年生が採用を外れた形で企業を知る機会や、いろいろな企業が参加するプラットフォームができるとよい。 ・プログラムで県内企業を知ることをきっかけに、3年生のインターンシップ実施前に、自分に合っている企業かを知ることができる流れになるとよい。 ・学生をどのような姿勢でプログラムに臨ませるのか、1日目の課題シートの作成がとても大事。
宇賀田座長 (静岡大学)	<ul style="list-style-type: none"> ・今後プログラムを構築していく上で、企業の受入れ期間、教育プログラム、ターゲットの学生、実施主体の4点について議論する必要がある。 ・自分と重ねられるような社会人と接点をつくることで、仕事や会社に興味を持っていく等、人とのつながりを重視するのは一つの切り口となる。
小野委員 (しずおか徳津信用金庫)	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの理解を進めるため、少しでも企業と学生とが接する機会があるとよい。学生は社会に対する認識を深めることができる。 ・プログラムについては、県内学生全体の底上げという目的でターゲットを置いた方がよい。また、県外出身の学生に定着してもらうところにも力を入れていくべき。 ・オンリーワンを目指して頑張っている県内の中小企業を見てもらうことで、学生の視野を広げ、底上げにつなげることができるとよい。
近藤委員 (ELFIE GREEN(株))	<ul style="list-style-type: none"> ・こういった事業があることを、自ら調べて応募してくるような意欲のある学生には価値があるので、単位互換を謳わないのも一つだと思う。 ・実習先がどう県と関わりがあって、どう地域と関わっているか、実際に携わっている人が見えるようなプログラムだと、学生が自分がここで働いたらこういう人たちと関わるのだと感ぜられるよい機会になる。
松浦委員 (静岡文化芸術大学)	<ul style="list-style-type: none"> ・(受入れ期間について) 開催する側も受ける側も、できるだけ無理のない負担のない形でやれるとよい。そういった意味では2日間であれば、負担は軽減されるのではないかな。 ・事務系の企業でも、デザインのようなものづくり的な要素があるように、一つの企業にもいろいろな側面があることを知ってもらいたい。 ・大学コンソーシアムの単位互換授業のように、いわゆる共通の一般教養として単位化するのは違和感がない。

<p>望月委員 (常葉大学)</p>	<ul style="list-style-type: none">• 学生の志向の変化や企業側の人手不足等の理由で、2日間や3日間のインターンシップ（単位授業）が増えてきている。2社を2日間ずつというのはコンパクトでよい。• プログラムを授業に組み込むには学則変更等が必要であり、最初から単位認定するのは難しい。• 大学コンソーシアムのインターンシップ推進事業実施委員会の名称を変えてでも、何かをやっていけるとよい。
------------------------	---